ちいさな証

福音を伝えよう！

アレックス・グレゴリー

スイス日本語福音キリスト教会

初めまして、アレックスです。９月に19歳になりました！僕は日本で生まれ（浜松市出身だに！方言）１４歳まで静岡県で育ち、その後、家族とともにオーストラリアに移住した、体のなかに日本人、スイス人、オーストラリア人の血が流れるサードカルチャー人です。去年の八月にオーストラリア、メルボルンでイエス様を信じて救われたものです。今年、ドイツ語の勉強と母親が育った国を知るためにスイスに来ており、日本人のお婆ちゃんの家に住まわせてもらいながら、スイス日本語福音キリスト教会でお世話になっています。

2019年の夏休み、七月下旬にヨーロッパ一人旅の期間中、ルーマニアで開催された”第３６回ヨーロッパ・キリスト者の集い”に参加しました。この貴重な4日間の参加を可能にしてくれたのは、スイス日本語福音キリスト教会との関わりがあったからです。

クロアチアのマカルスカからバスで23時間かけてクルージュ・ナポカに着いたのは夜の10時頃でした。会場に着いて、Teens＆Youth用プログラムを眺めながら、最初のアイスブレイクの替わりに、僕自身心身のブレイクを実感していました。夕食の時間を逃してしまった悔しさはともかく、この大会で自分の印象に残ったことを二点述べたいと思います。

クルージュ・日本文化作品展で日本の衣装を披露

一つ目は何と言っても”the turning 福音を伝えよう”で、この体験は決して忘れることができないものです。「The Turning 福音を伝えよう」というのはTeens ＆ Youthプログラム2日目の特別企画です。集まったユースの中から、２、３人づつのグループに分かれ、ホテルと川を隔てて横たわるクルージュ市の広大なセントラルパークにでかけて、迷惑になるかも知れない内容を公園でくつろぐ現地の人々に話しかけます。これも威圧感の無いよう、自己紹介に始まり、相手への質問へとつなげますが、最終的には、イエス様の偉大さを知ってもらうのが狙いでした。

僕のグループは、川井佳代子先生、トムセン・ヨハナさんと僕でした。トップバッター、ヨハナさんは始めに相手に首をかしげさせるような質問を出し、相手の個性に合わせた個人的で軽妙な話しぶりで、私にとっては最高なお手本となりました。一方、僕はかなり無骨で不慣れでありましたが、苦しみのなかで、イエス様を受け入れたあとの人生の喜びと解放感の話しをしました。これは確かに先方のハートに伝わる話ができたと思います。その後、川井佳代子先生が向かったのは、７人程の青年のグループでした。このグループの中には、クリスチャンも数人いるようでしたが、はじめは、何人かの信仰を見下すような発言もあったのです。

特に印象的であったのは、ルーマニアで長年にわたって宣教されてこられた川井佳代子先生の伝道に対する真剣な姿勢でした。初めのうち、明らかに川井佳代子先生の発言に同意していなかった”彼”の様子が、対話が深まっていく中で、彼の表情に変化が見られました。彼の両眼は、対話が深まる時間の経過につれて、大きく見開かれ、川井先生の方に完全ロックイン状態となりました。そして、ただ一人、地元の教会への推薦用紙に名を残したのが彼だったのです。そんな彼の救いを求める行為には、しばらく前の自分自身が救われる一歩手前の姿を見た思いでした。それは、今後の彼への主の働きかけを注目しないではおられない特別な午後でした。

二つ目はヨーロッパ・キリスト者の集いの規模です。初めて大会の参加者全員を目にしたときは、正直言って食事の量が足りるかどうかと心配でした。Teens＆Youthだけでも30人以上という人数で、キリスト教への信念、世代の違い、そして、根底に日本と欧州への関わりを共通にする仲間達、先輩たちと交流できるヨーロッパ・キリスト者の集いは、私が生まれて初めて経験する最高な舞台でした。こんなに沢山の皆さんが、様々な理由で、主のもとに、主の計画に従って集まってこられたことを考えると、僕はイエス様の偉大さに今更ながら感動を禁じ得ませんでした。

クルージュ市
セントラルパーク

心から安心して、一緒に心を合わせて、主に礼拝の時間をささげられる場を一生懸命に準備し、実行してくださったスタッフの方々と、本大会の近くで、一人一人をあったかく見守ってくださっていたイエス様に心から感謝します。